富山県武道館整備基本計画【改定版】（案）　概要

資料４

第１　計画改定の背景

１　県営武道館の老朽化

老朽化した施設の統廃合、武道振興の拠点施設の整備

２　現行計画策定後（令和２年４月）の環境変化等

資材高騰等による整備費の上昇、建設予定地周辺の環境変化

第２　施設のコンセプト

■ 現行計画の３つのコンセプト

「武道競技の振興・競技力向上に寄与する施設」 に絞り込み

■ 施設の役割

・富山県の武道の拠点となる施設

・武道競技の公式大会が開催可能な施設

・日常の稽古や指導者講習会、研修会で利用しやすい施設

第３　施設の活用イメージ

● 武道競技の振興・競技力向上

柔道大会

剣道大会

- 武道競技以外での活用
（武道用規格・構造のまま活用可能な種目）

＜例＞

- 卓球
- バドミントン
- ソフトバレーボール
- ダンス、ヨガ　など

シッティングバレーボール

第４　計画の概要

１　立地場所

●「Ⓐ民間駐車場敷地（富山市千歳町）」「Ⓑ五福公園スポーツ広場（富山市五福）」「Ⓒ県総合運動公園のびのび広場（富山市南中田）」の3カ所について、検討・評価した。

下記の理由により、「Ⓒ県総合運動公園のびのび広場」が適地として選定

- 駐車場が多く確保でき、富山ICからのアクセスが良く、大会開催会場に適していること
- 同公園内には陸上競技場、屋内グラウンド、近隣には県総合体育センター等があり、スポーツ施設が集積するエリアとなることが期待されること
- 同公園は敷地が広く、拡張性があること

県総合運動公園のびのび広場（Ⓒ）

※立地場所の再検討の条件

①整備費の削減・令和９年度中の開館

・単層構造で建設可能な広さの土地

・用地取得に時間を要しない県有地

②駐車場の確保

・敷地内に駐車場が確保できる土地

第４　計画の概要（続き）

２　施設機能及び施設規模

（１）施設機能

「武道競技の振興・競技力向上」
～大会開催や練習利用に必要な機能～

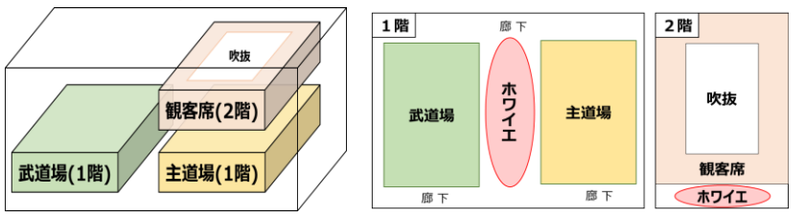
（２）施設規模

延床面積12,000㎡程度 ＜現行計画では14,000㎡程度＞
※武道特化、単層構造により削減

機能	規模等
主道場	・競技面積2,000㎡程度(柔道６面又は剣道６面) ・観客席1,500席程度
武道場	・競技面（畳敷き３面及び板敷き３面） 可動間仕切り設置
その他	エントランス、ホワイエ、廊下、階段、事務室、会議室、医務室、トイレ、機械室、搬入ヤード、器具庫、大会諸室、選手控室、更衣室　等

（３）レイアウトイメージ

単層構造(２階建)　建築面積7,500㎡程度



第５　施設整備にあたり考慮すべき事項

（１）駐車場の確保

団体バスの乗降や荷物の積み下ろしができるスペース、障がい者用駐車場、送迎者用乗降者場を確保することについて検討する。

（２）ユニバーサルデザインへの配慮

子どもから高齢者、障がい者、全ての方が利用しやすいよう配慮する。

（３）武道競技以外での活用への配慮

競技面に床金具が不要な種目にも活用できるよう、備品や器具庫スペースの確保に配慮する。

（４）県産材等の活用

県産材の活用について検討し、仮に構造材としては使用できない場合でも、内装材等に積極的に県産材等を活用することについて検討する。

（５）経済性・環境への配慮

整備費や維持管理費を抑える工夫について検討する。環境負荷の軽減のため、ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）を目指す。
※延床面積10,000㎡以上の大規模な建築物を対象とした「ZEB Oriented」を想定

（６）既設の武道館の統廃合

現在の県営富山武道館と県営高岡武道館は県営施設としては廃止することとし、廃止後の施設の活用については、地元市をはじめ関係方面と十分協議し、適切に対処していく。

（７）弓道場、相撲場について

既存の県営富山弓道場及び富山県スポーツ協会の相撲場については、必要な改修等を実施する。

第６　整備費と整備スケジュール

１　整備費等

（１）概算整備費（試算）

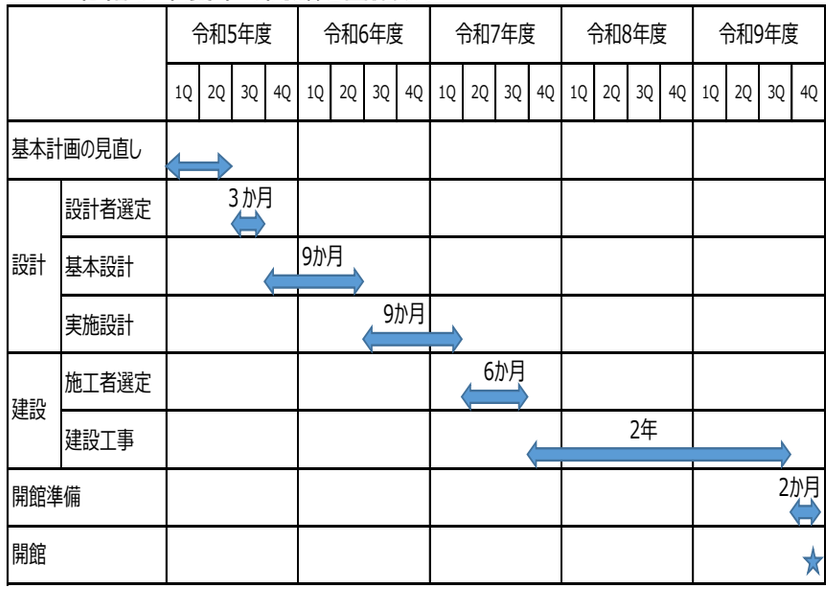
・87.3億円～91.4億円 ＜現行計画では85億円～95億円＞

（２）維持管理・運営費（試算）

・年間支出額 133百万円 ＜現行計画では170百万円＞

・年間収入額　11百万円 ＜現行計画では試算なし＞

※維持管理・運営は、今後、効率的・効果的な手法を検討する。

２　整備スケジュール

令和９年度中の開館を目指す。